

案内

大学クリスマス礼拝

青山キャンパス

日時 12月16日(火) 18時30分～19時30分
場所 ガウチャー記念礼拝堂
説教 「クリスマスだから、不安になる」
平野 克己 (代田教会牧師、同教会附属幼稚園園長)
聖書 アモス 5:21～24 マタイ 2:1～3
朗読者: 森 島 豊 (大学宗教主任)、玉 木 欽 也 (経営学部教授)

相模原キャンパス

日時 12月18日(木) 18時30分～19時30分
場所 ウェスレー・チャペル
説教 「本当のクリスマス」
キスト岡崎 さゆり (アメリカ改革派教会牧師、日本キリスト教団協力宣教師)
聖書 イザヤ 9:5,6 ルカ 2:1～20
朗読者: Stephen Lambacher (社会情報学部准教授)、
Martin Dürst (理工学部教授)

※当日は席上献金があります。

第39回オール青山メサイア公演

日時 12月21日(日) 17時開演
場所 青山学院講堂 全席指定1500円

2014年度 クリスマス献金送付先

今年度も皆様のご協力をお願い致します。

●カタンガ・メソジスト大学(コンゴ民主共和国)

本学と同じIAMSCU(メソジスト関係学校国際同盟)加盟校。この地域は食糧自給率が極端に低く、多くの人々が貧困・飢餓に苦しんでいます。また17歳以下が全人口の半分を占めており、それゆえ学校教育の充実、とくに農業教育や情報教育の環境整備が急務とされています。

●被災者支援センター・エマオ(日本キリスト教団東北教区)

東日本大震災の被災地ではまだたくさんの方々が助けを必要としています。多くのものを失った方々に心から寄り添い、人々の思いを共有できることを目指してボランティア派遣の活動を展開しています。

●社会福祉法人「光の子どもの家」(埼玉県加須市)

1985年に認可された児童養護施設であり、様々な事情により家族と生活をする事ができない子どものための施設です。2012年にはドキュメンタリー映画『隣る人』が公開されました。創立当初から本学と深い関わりがある施設です。

青山学院大学礼拝週報

2014. 12. 15.
No. 30

待降節第3週

教会史の人々 [15]

「内村 鑑三」
(1861(万延2)–1930(昭和5))

内村鑑三は明治大正期の代表的なキリスト者です。内村は、「少年よ、大志を抱け」という言葉で知られるW.S.クラークがその第1期生を指導した札幌農学校に、第2期生として入学しました。そして在学中に1期生の影響をうけ洗礼を受けました。



キング・ジェームズ版英語聖書復刻版(宗教センター蔵)

卒業後は水産研究に従事しましたが、米国のアマースト大学に留学しキリスト教理解を深め、帰国後、幾つかの学校で教鞭を執ります。しかし、第一高等中学校嘱託教員時代に、教育勅語の奉戴式において「奉拝」を拒み、軽く会釈だけで済ませたことが問題となり辞職、独立伝道者の道を歩むこととなります。このことは「教育と宗教の衝突」論争となりましたが、唯一の神の前にすべての人間的権威は相対化されるとの明白な信仰が示されたことは日本の歴史の中で特筆すべきことです。

内村は文筆活動によって社会の諸問題を論じ、またキリスト教伝道者として聖書研究会に力を入れ、多くの有為な人材を世に送り出しました。その影響力は強く、政治家から教育者にまで及んでいます。またその独立伝道の姿勢は、無教会と言われる人々によって現在も受け継がれています。

今年度の主題聖句

神から受けた純真と誠実によって

(コリントの信徒への手紙 二 第1章12節)